

一般演題（II-B-24～II-B-27）に対する司会者のまとめ
「基礎研究1」

神戸大学医学部麻酔学教室・集中治療部

前川信博

本セッションでは4題を議論した。

まず、越智（愛媛大）は人工換気時のCO₂と流量のモニターから、再呼吸量を検討され、再呼吸率は約10-15%であり、幾つかの換気パラメータと相関することを報告された。討論では再呼吸率が高すぎるという点に議論が集中し、メインフロー方式によるCO₂測定での結果を待って議論を深めることに落ち着いた。

次いで実験的に持続的陽圧換気時の肺胞内圧の測定を佐藤（東北大）が報告され、回路内圧の95%以上にまで達していることを示された。この結果の持つ臨床的意義に関しては議論がわかれた。

第3題は筋弛緩薬使用時の人工呼吸中の患者の意識レベルを、中潜時聴覚誘発電位をモニターすることから評価しようとする、比較的新しい試みを森（大分医大）が報告された。筋弛緩薬使用時の鎮静薬投与量の評価に有用だが、個体差が大きく、また再現性についても検討を要するとの結論であった。筋弛緩薬使用時の鎮静薬の投与量については不明なことが多く、今後もっと症例を重ね、報告していただきたい。

最後は、麻酔中の片肺換気時におけるエンドセリンの動向を、竹田（日本医大）が報告された。低酸素状態の負荷により肺動脈圧の上昇とエンドセリンの増加がみられ、両者の因果関係が示唆される結果であったが、ANPの測定や循環系の各種パラメータの変化などについての結果も合わせて報告していただくとともに議論を深められたものと思われた。